

今年の漢字が決定!!

毎年、日本漢字能力検定協会が主催する【今年の漢字】が“戦”に決定しました。本校でも1年生の皆さんがそれぞれ予想してくれました。全国からの応募総数は223,768票。もちろん本校でも的中した人が何人かいましたね。お見事です。



また、2位は“安”となり、こちらも数人の人が的中していました。お見事です。ネットで検索してみると、今年はロシアによるウクライナへの侵攻や安倍元首相の銃撃事件、円安や物価高の影響・電力不足や感染症など、多くの人に不安を与えた出来事により、生活の中で起きている身近な“戦”いを、多くの人が日々の生活の中で体感したからということが紹介されています。逆に、サッカーのワールドカップや北京冬季オリンピックでの熱“戦”という明るい出来事をあげて、前向きな“戦”いという意味を込めたという意見もありました。ちなみに本校でこの漢字を選んだ人の中には、その理由として「今年は悲しいことがたくさんあったりいろいろあったけど、それらに負けずに“戦”い続けよう」という意味でこの漢字にしました。」と書いてくれた人がいました。とても感動しました。



そのサッカーW杯では、日本がドイツ・スペインという強豪国に勝利し、予選リーグを1位で通過しました。そして、12月6日に行われた決勝トーナメントの1回戦では、残念ながらクロアチアにPK戦の末、負けてしまいましたが、日本中に大きな感動を与えてくれました。

ある報道番組の特集では試合直後のロッカールームでの様子が紹介されていました。そこで印象に残ったのは皆を励ましていた長友選手の言葉です。「PKを蹴ってくれてありがとう。俺には蹴る勇気がなかった。…」と涙ながらに励ますその姿にまた感動しました。実は、PK戦に入るとき、日本は蹴る人を始まる直前に立候補で決めました。その時、5秒間の沈黙の時間があったそうです。沈黙の中、手を挙げ、1番初めに蹴った南野選手、そして2番目に蹴った三苫選手は、相手のゴールキーパーに止められてしまいます。3番

目の浅野選手は成功しましたが、後がなくなった日本は、キャプテンの吉田選手が続きました。しかし、惜しくもまたクロアチアのゴールキーパーに止められてしまいました。結果、1対3で日本はクロアチアに敗れてしまったのでした。

私は、この試合を見て、あるサッカー選手の言葉を思い出しました。それは「イタリアの至宝」と呼ばれたロベルト・バッジョ選手の言葉です。1994年アメリカで開催されたサッカーW杯でのイタリアとブラジルの決勝戦。両者一步も譲らず、延長を終了して0対0のままPK戦に突入しました。PK戦3対2で迎えた最後のキッカーは彼でした。しかし彼の蹴ったボールは、クロスバーを大きく外れてしまい、その瞬間ブラジルの優勝が決まったのでした。

次のフランスW杯では、イタリアは準々決勝で再びPK戦になりました。バッジョ選手は成功しましたが、仲間の失敗で敗退します。その時に、バッジョ選手がPKを外したチームメイトに発した言葉が「PKを外すことができるのは、PKを蹴る勇気を持つ者だけだ」というものでした。

今回のW杯で、PKを外した3人の選手は大変大きなプレッシャーの中で勇気を出してボールを蹴ったことと思います。だから失敗した選手たちを批判する人は誰もいないと思います。私は、この3選手のように「大きなプレッシャーをはねのけてPKを蹴る勇気」をもつこと、長友選手のように「PKを外した人をねぎらい、感謝できる人」になること、両方がそれぞれに大切であると思います。様々な取り組みによって心を磨きながら“勇気”と“感謝”を充電していきましょう。

“きれい西隊”が行く!!

12月7日(水)、放課後の寒い中、区役所や地域の方々とともに“きれいにしたい(西隊)”を結成。学校周辺の落書き消去・ゴミ拾い活動を展開しました。

最初に落書きの消去方法を説明してもらい、記念撮影をした後、3班に分かれて活動を開始。バス停や送電システム等々、落書きを消去して

いきました。ごみの方もけっこうな量になりました。普段あまり気が付かないところにも空き缶が捨てられていたり…、わが街をきれいにしたい気持ちが高まった一日でした。

